

報 告 書

会議名	第18回 まち・ひと・しごと創生本部有識者会議	場所	全員協議会室
開催日	令和4年7月15日(金) 10時30分～12時05分	記録者	政策企画課 海野
出席者 有識者会議委員：鈴木（代理：大須賀）委員、齋藤委員、成田委員、峯島委員、綿引委員、吉田委員、 寺門委員、荒川委員、平野委員、高村委員、國井委員、山原（代理：大沢）委員 本部員：先崎市長（本部長）、玉川副市長（副本部長）、大森企画部長、飛田総務部長、 玉川市民生活部長、浅野産業部長、今瀬建設部長、小橋教育部長、渡邊議会事務局長、 鈴木消防長 欠席者：清山委員、木村委員、畠山委員、大縄教育長、平野保健福祉部長、根本上下水道部長 事務局：政策企画課 篠原課長、宇佐美課長補佐（総括）、牧野 G 長、齋藤主幹、記録者			

本部長あいさつ

本日は、お忙しいところ、「第18回まち・ひと・しごと創生本部有識者会議」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様方には多くの用務を抱えておられるなか、委員をお引き受けいただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、「第2期那珂市まち・ひと・しごと総合戦略」を令和2年5月に策定し、現在、総合戦略に沿った取り組みを進めているところですが、その間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けるなど、事業を進めるうえで思うように事業が展開できないなど、多くの苦労がありました。

現在、ワクチンの4回目接種が開始され、新規感染者数が落ち着きをみせるなど、新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境は日々変化しています。そのような中、デジタル技術の活用により、地域それぞれの個性を活かしながら、地方から持続可能な経済社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」が国により打ち立てられるなど、アフターコロナを見据え、市としても新たな一步を踏み出し、各種取組を前進させる局面に入ってきています。

この地方創生に係る戦略は、委員の皆様の実験や意見を踏まえ、行政と産官学などが協働した取組を実行していくことが大変重要であると考えております。

本日は忌憚のないご意見をいただきますようお願いし、挨拶とします。

自己紹介

大須賀課長補佐：鈴木の代理で出席させていただいております大須賀と申します。

齋藤委員：ひたちなかテクノセンター、企業支援コーディネーターの齋藤と申します。

成田委員：那珂市商工会の成田です。

峯島委員：那珂市で農業をしている峯島です。

綿引委員：フェルミエ那珂代表の綿引です。

吉田委員：常磐大学総合政策学部教授の吉田と申します。

報 告 書

寺門委員：常陽銀行菅谷支店、支店長の寺門と申します。

荒川委員：筑波銀行那珂支店長の荒川と申します。

平野委員：まちづくり協議会の会長をしております平野です。

高村委員：高村と申します。FP事務所の will be と記載されているが、肩書が変わり現在はライフ支援パートナーOne Step の高村と申します。

國井委員：スクール代表の國井です。

大沢委員：JTB 水戸支店、山原の代理で出席させていただいております大沢と申します。

創生本部員と事務局も自己紹介

議題1 第2期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

資料1、資料2により説明

(質疑)

- 大須賀委員 人口還流戦略の移住・関係人口の創出について、コロナ禍にもかかわらずオンラインなどを活用して積極的に取り組まれている印象であり、その結果として各種移住支援制度を利用した転入者数がA評価になっているのではないかと考えている。一方で、資料2のわくわく茨城生活実現事業について、移住支援金制度はあくまでも移住を呼び込む一つの手段であり、目的ではないため、結果だけを見て評価をする必要はないと考えているが、この事業をさらに有効なツールとするためには、市内で4社のみとなっている移住対象支援法人について、市においても商工会と連携して拡充していくのがいいのではないか。
- 事務局 市としても受け入れ企業の拡充をしなければ、支援金を活用できないということもあるため、商工観光課と連携しながら受け入れ態勢の拡充を進めていきたいと考えている。今年度については、学生インターンシップを受け入れていただく企業にもチラシを配布し、お願いをしているところである。
- 齋藤委員 資料1について、令和3年度のKPIの評価はB以上の割合が70%以上となっており、かなり上手くいっているように思えるが、KGIはCが2つありKPIと合っているように見えなかったため、どういった関連があるのかが気になった。例えば、結婚・出産・子育てのKGIはC評価であるのに対して、KPIではC評価が2つしかなく、ほとんどが、A・B評価になっているので、それをどう捉えればよいのか。
- また、資料1のC評価に対して令和4年度はどのようにしていくのがよく分からなかったため、もし何かあれば、分かる範囲で教えていただきたい。
- さらに、資料1と資料2の関係性がよく分からなかったため、教えていただきたい。資料1のどの部分と関連性があるのかを分かるようにして、全体の評価をしたほうがよいのではないか。
- 事務局 KGIとKPIの関連性については、重なっている項目もあるため、関連性は必要である

報 告 書

と考えているが、どちらについても一つ一つの項目に対して目標値を設定し、その目標値について毎年度評価しているところであるため、今回もそれに対する評価をさせていただいた。

資料2については、KPIに設定している項目の中でも、地方創生推進交付金を充当した事業を特出ししており、その事業ごとに評価をしている。例えばデマンド交通だと、資料1の公共交通の改善と利用促進という項目において、ひまわりタクシーの利用者数というKPIを設定し、評価している。

成 田 委 員 商工会にもデマンド交通を利用して来ていただくことがあり、迎いのタクシーを商工会の事務局で呼ぶことがあるが、乗合の都合もあり待ち時間が長くなっている状況であるため、拡充をお願いしたい。

事 務 局 現在のデマンドタクシー事業は6台で運行している。予約がうまくいかないという要望に対して、予約システムの検討を進めているところである。

峯 島 委 員 アグリビジネス推進事業について、農産物の売上があまり上がっていないものの、事業評価はAとなっている。現在、原油高等の影響で肥料や資材費が高騰しているため、個人所得は下がっており、非常に厳しい状況である。肥料や資材費が下がる見込みがない中で、市としての対策等の方針があるのかどうか教えていただきたい。

企 画 部 長 コロナ対策関連事業に活用する地方創生臨時交付金というものがあり、現在、この交付金を活用して、コロナの影響で疲弊した方々に対する支援を9月補正予算に向けて検討しているところである。その中では、農業者の方に対する支援も検討を進めている。

綿 引 委 員 アグリビジネス推進事業について、ブランド化や担い手育成など始まったばかりの取り組みが多く、まだまだ成果が出てきていないため、評価はAとなっているが、もっと厳しめでいいのではないか。

また、資料1の新規就農・認定農業者数の年齢などは詳しくみていないのか。長いスパンでみると、年齢も大事になるので、可能であれば、年齢も把握していただきたい。

産 業 部 長 現在は年齢ではなく、人数で把握しているところであるが、認定をする際の帳票などで年齢を把握することは可能である。年齢構成を把握することで農業者の全体像が見えてくるので、農政課において内容を整理して把握できればと考えている。

吉 田 委 員 資料2のつながる茨城チャレンジフィールドプロジェクトの指標で、指標1「社会動態による年間増加者数」205人と指標2「各種移住制度を利用した転入者数」357人の関係性と自然増減を含めた人口動態がどうなっているのか教えていただきたい。

報 告 書

また、デマンド交通について、高萩市では今年度4～9月まで茨城交通と連携してアプリを使い、自宅の近くに停めてもらうという実証実験を行っており、10月から本格運用が開始される予定である。デマンド交通と路線バスは異なると思うが、近くの自治体であるため、情報を共有して連携してみてもどうか。

静峰ふるさと公園活性化事業について、6月に政策企画課や総務課の方に話を聞いたとき、学生は静峰ふるさと公園をあまり知らなかったようであった。また、SNSを使って水戸市を中心に200人程度にアンケートを取ったところ、認知度は10%程度であった。認知度を上げるためには、パンフレットやチラシよりもInstagramを活用してPRをした方がよいとの意見が学生から挙がった。

事務局 つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクトの指標について、指標1の社会動態による年間増加者数は205人となっており、令和元年度、令和2年度と比べて増えている状況である。この数字は、社会動態であるため、転出者と転入者を差し引くと転入者が205人多かったということである。指標2については、住宅取得助成金を活用して転入された方であり、指標1と重複する部分がある。

デマンド交通については、オンラインの予約システムも導入して利用の促進を図っていききたい。また、近隣市町村の事業の研究も進めていききたい。

地域おこし協力隊によるイベントを開催する際に、Instagramを活用して発信しているところであるが、今後も継続して行っていききたい。

寺門委員 先日用務でJA江戸崎を訪れたところ、江戸崎かぼちゃを購入する人で長蛇の列ができており、整理券がないと買えないという状況で、ブランド力の強さを感じた。那珂かぼちゃは味を比較してもそんな色ないと思っているが、那珂かぼちゃのようなブランド野菜の育成について伺いたい。

産業部長 令和2年度にアグリビジネス戦略を策定して、販路拡大や就農者の育成を進めている。また、江戸崎かぼちゃと並んで那珂かぼちゃも有名なブランドとして愛されているところであり、江戸崎かぼちゃと比べると生産量が少ない状況ではあるが、JAが後継者育成に向けて動いているところである。市でもかぼちゃのブランドアッププロジェクトを立ち上げて、年間を通した生産や販売ができるように協力者を募っているところである。

荒川委員 人口還流戦略について、社会動態による年間増加者数が増えているということであり、総合戦略が有効に機能していると考えている。それに関連し、時代にあった地域の創造戦略の中のKPI「市街化区域の宅地率」について、今後、宅地化率を上げていかないと人口は増えていかないのではないかと考えている。不動産関係の方によると、市街化区域の中で宅地化できる場所が少なくなっているという話があるため、市街化区域の拡充や市街化調整区域の中でも住宅を建てられる箇所を設けるなどの施策を行ってはどうか。

建設部長 市街化区域については、下菅谷地区の道路の整備を進めており、宅地開発が進んでいる状況である。また、開発には道路の整備が必要となるため、ひたちなか市から杉地区を結ぶ道路の整備を進めており、開通することで土地の利用が図られるのではない

報 告 書

かと考えているところである。市街化調整区域については、区域指定という制度があり、ある一定の地区を指定して、建築の要件を緩和している。

平野委員 安定した雇用の創出戦略について、最終年度の目標値 100 名に対して現在 8 名であるが、目標値を大きく下回っている理由を教えてください。

また、住みやすいと思う市民の割合は 80%後半で推移しているが、どういうところで住みよいかと思っているのか、分かれば教えてください。

デマンドタクシーについては、もう少し利用しやすいように拡充していく必要があるのではないか。利用者の割合は高齢者が多いと思うが、高齢者にとってインターネットを使った予約に移行することは困難であるため、高齢者がより使いやすいように進めていく必要があるのではないか。

アグリビジネス戦略については、フェルミエ那珂が市民にも認知されていることはすごいことであり、昨年水戸駅で開催したイベントでは市外の方にも PR して、盛況であった。今後も戦略を練りながら、引き続き行っていただきたい。また、インター周辺開発との関連において、早い段階で道の駅ができた後の戦略についても考えていく必要があるのではないか。

事務局 安定した雇用の創出戦略については、第 1 期から引き続き目標として掲げている項目であり、100 名の内訳としては、農業の担い手育成支援 10 名、起業・創業支援 70 名、テレワーク実践者数 20 名となっている。今年度は企業支援コーディネーターに手伝っていただき、創業者が 5 名であった。様々な事業を実施して進めて、少しでも目標値に近づけられるようにしていきたい。

住みよさについては、市民アンケートの数字となっている。住みよさの理由としては、コンパクトなまちづくりや幼稚園・保育園等の教育施設の整備などであると把握している。

デマンド交通については、高齢者が多いことから病院などを乗降場所として設置しているが、時間や予約方法などは改めて検討していく必要があると考えている。

フェルミエ那珂については、先ほど水戸駅での販売との話があった。今年度も水戸駅のコンコースでの販売を行ったが、大変好評であった。また、農業は道の駅にもつながるし、農産物は重要な資源となるため、市内の農業者や検討委員会での意見を参考にしながら、資源を存分に生かせるように進めているところである。

高村委員 資料 1 「移住定住の促進」の KPI について、令和 3 年度の移住者が 357 人となっていることに驚いたが、移住の目的が、市の方向性や思惑に合っているのか。もし合っていないのであればそのような人を呼び込むにはどうすべきかお聞きしたい。

サテライトオフィスの導入について、個人事業主やフリーランスはシェアオフィスやサテライトオフィスを探していることが多く、実際に周りでも水戸市で借りている人が多くいる。水戸市には全国規模の事業者が参入しており、使い勝手が良い印象である。そういった中で、那珂市は市としてサテライトオフィスを導入したということで、導入目的と現在の使用状況を教えてください。

また、ライフデザインの形成支援について、結婚・出産・子育て応援戦略に含まれて

報 告 書

いることに疑問を抱いている委員も数名いると聞いている。中学2年生を対象にしたライフデザイン教育は必要なことであり、アンケートでは90%弱の高評価を得ているが、マイナス評価をつける児童・生徒はあまりいないのではないかと。重要なことは事業実施直後のアンケート結果よりも、継続的に子どもたちの心に残り、将来のライフデザイン形成につながることである。現在、指導要領の改訂があり、キャリア教育や社会制度の理解からライフデザインを形成していくことが高校まで盛り込まれており、可能であれば教育授業の中で継続的に事業を行ってほしい。

資料2について、様々な事業を行っており、楽しそうだなという印象である。実際に住んでいる40代・50代の目線と言えば、生活が良くなってきている実感はあまりないが、周りの人たちとは不便なく生活できているのではないかと話している。那珂市と一口で言っても地域差があるため、その課題は山積みであると感じている。

アグリビジネス推進事業については、水戸市で食事をした際、メニューの中に綿引さんの名前が書いてあり嬉しかったので、このまま事業を進めてほしい。

事務局 各種移住支援制度を利用した転入者数について、繰り返しになるが、住宅取得助成金を活用した人数であり、この制度を活用する人は近隣の市町村からも多く、首都圏からの移住という市の思惑と一致しているのかどうかという疑問については委員のおっしゃるとおりである。助成金制度が有効に移住・転入に結びついているのかどうかについては注視していく必要があると考えている。

サテライトオフィスについて、フリーランスの方はシェアオフィスやサテライトオフィスを求めていること、特に使い勝手の良さを求めていることから、そういったものが備われば十分に充実した施設になっていくのかなと考えている。サテライトオフィスの契約状況については、貸オフィスが2件、創業デスクは1件契約があり、順調に埋まってきている状況である。

教育部長 ライフデザイン形成について、県の少子化対策の一環から始まったものであり、対象は中学2年生となっているが、これは将来自分がどのような人生を生きていくのか一度考える時期と合致しているためである。将来、仕事や家庭を持つ中で自分の思い描く人生を生きるためにはどれくらいの給料が必要なのか、バランスの取れた人生設計をするためにはどのような金銭感覚を養うことは重要であると考えている。

国井委員 イベントや施策の情報発信が一本化されていないように感じている。これを解決するためには、インスタグラムを活用しつつ、いい那珂暮らし応援団や宣伝部などを発展させていく必要がある。これからは、なるべくプロの目線ではなく、市民の目線で那珂市を発信していくことで、市民が自分事として捉えられるようになるのではないかと考えている。この活動が軌道に乗るかどうかは、情報をいかに集めるかであるため、情報をシティプロモーション推進室に集めていただきたい。その結果、いい那珂暮らしの発信につながるのではないかと。

事務局 現状では情報の一本化はできていないが、「いい那珂暮らし」はキャッチーで、周辺市町村の方からもそういったものが自分の自治体にもほしいという声が聞けるようになってきたことから、浸透してきているなど感じる。これまではインスタグラムが

報 告 書

弱いということについては否めなかったが、令和4年4月から宣伝部を立ち上げ、プロの手ほどきを受けながら、文章の書き方や写真の撮り方などを市民参加型で学んでいただき、インスタグラム等を活用して発信をしていくこととなっている。

大 沢 委 員 コロナ禍が長引いており、観光面については集客やイベントの開催が難しい中で、イルミネーションをはじめとした静峰公園を生かした活動を行っていると同っている。また、サイクリングイベントを昨年初めて実施したということであるが、コロナ禍の中でサイクリング・キャンプを含めたアウトドアの熱が高まっている状況であることから、他の自治体でもサイクリングイベントを多く実施している傾向があるため、継続的に実施していただくことでサイクリストに那珂市に来ていただくきっかけになるのではないかと感じている。また、来年度に JR の大規模なイベントで、デスティネーションキャンペーン（DC）があるが、それに関連して、今後予定されているものがあれば教えていただきたい。

事 務 局 今年度も9月4日に茨城放送と共同で「いばチャリ」というイベントの開催を予定している。コロナ禍においても自転車は密を避けられるスポーツとして再注目されており、県内各地でも実施されているところであるため、高齢者の安全教室や未就学児の自転車スタートアップ事業なども引き続き実施していきたいと考えている。デスティネーションキャンペーンについては、担当課で何ができるのかを検討し始めているところであり、市としても協力し、参画していけたらと考えている。

議題2 令和4年度の取組みについて

資料3により説明

（質疑）

特になし。

その他

特になし。